

八戸市沿岸部における近隣公園の利用実態と課題

八戸工業高等専門学校 ○学生員 中嶋朗人
八戸工業高等専門学校 正 員 今野恵喜

1. はじめに

公園は人々の憩いの場であったり、遊戯の場であったりと様々な機能を持っている。また、災害時には一時避難地としての役割を持つ公園もあり、人間が生活するうえで必要不可欠な存在となっている。そこで、本研究では、八戸市沿岸部における近隣公園について、周辺住民の平常時と東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）時の利用実態と課題を住民アンケートを通して明らかにすることを目的としている。

2. 調査概要

調査対象世帯は青森県八戸市の館鼻公園を中心とした半径約 500m 圏内に住む 332 世帯である。館鼻公園の利用実態について、アンケート（1 世帯あたり個人票 4 票）調査は配布・郵送回収法で実施した。回収数は 87 世帯（回収率 26.2%）、個人票は 215 票であった。ご家族のうちの 10 歳以上の方 4 名までを対象としており、自分自身についてお答えいただくように依頼した。調査期間は平成 23 年 12 月下旬から平成 24 年 1 月下旬である。

3. 館鼻公園の概要

館鼻公園は青森県八戸市湊町の新井田川河口に位置している公園で、面積は 1.8ha、種別として近隣公園に分類されている。桜の名所であり、八戸市内を一望できる展望台「グレットタワー」があることから観光スポットとしても有名である。また、八戸市内の公園の中でも特に整備が多く行なわれている。

平成 23 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災時には、一時避難地として館鼻公園が利用された。しかし、新井田川河口の高台に位置し、八戸港を一望できることから津波の様子を見ようと報道陣や野次馬が殺到した。そのため、駐車場には車が溢れかえり避難しようとした人にとっては大変迷惑であったということが事前調査で判明している。

4. 調査結果

4.1 平常時の利用実態と意識

図-1 は 3 月 11 日以前の一年間での館鼻公園の利用状況である。館鼻公園を「ほとんど利用しなかった」、「まったく利用しなかった」という人が 73% を占め、普段公園を利用している住民は少ないことがわかる。しかし、公園を利用してみての満足度は 72% と比較的高い。その中で満足度を分ける要因は、数量化Ⅱ類

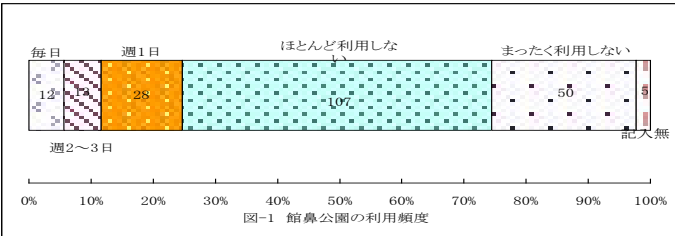


表-1 3月11日以前の一年間の館鼻公園利用満足度についての分析(数量化Ⅱ類)

アイテム名	カテゴリ名	例数	カテゴリスコア	レンジ	偏相関係数
問1 あなたは、どのくらいの頻度で館鼻公園を利用しましたか？	毎日	9	0.362	0.866	0.557
	週2〜3日	8	0.423		
	週1日	15	-0.443		
問2 自宅から館鼻公園までの交通手段は？	徒歩	29	-0.025	0.262	0.123
	自動車	3	0.237		
問3 自宅から館鼻公園までの距離は？	200m未満	17	-0.474	1.678	0.715
	200m〜399m	7	1.204		
	400m以上	8	-0.045		
問4 館鼻公園には誰と行きますか？	一人で	21	-0.144	0.651	0.378
	家族と	7	0.507		
	その他	4	-0.128		
問5 館鼻公園内で最初に行く場所は？	日和山広場	5	-1.123	2.078	0.724
	あずまや	5	0.033		
	グレットタワー	8	0.954		
	その他	14	-0.156		
問6 どのような目的で行ったのですか？	散歩	13	-0.026	2.961	0.764
	遊具で遊ぶ	4	-1.576		
	眺望する	9	-0.186		
	その他	6	1.385		
性別	男	17	-0.131	0.280	0.222
	女	15	0.149		
年代	10代〜20代	2	0.767	1.483	0.703
	30代〜40代	5	0.684		
	50代〜60代	12	0.363		
	70代以上	13	-0.716		

外的基準	例数	カテゴリスコア	相関比
満足	23	0.2948	0.753
どちらでもない	7	-1.4876	
不満	2	1.8159	

による分析（表-1）により、第 1 位が「どのような目的で行ったのか？」であり「散歩」や「眺望する」と
キーワード: 沿岸部、近隣公園、東日本大震災、利用実態、平常時、非常時

連絡先:〒039-1192 八戸市田面木字上野平 16-1 八戸工業高等専門学校 建設環境工学科 TEL 0178-27-7308

答えた人が満足しているという傾向にある。逆に「その他」を選んだ人は不満側である傾向にあり、「四季に合った植物を植えてほしい」や「グレットタワーの高さが物足りない」といった意見が寄せられた。第2位は「館鼻公園内で最初に行く場所は？」であり、「あずまや」を選んだ人が満足している傾向にある。第3位は「自宅から館鼻公園までの距離は？」であり、400m以上の位置に住んでいる人は満足側であり、200m～399mの位置に住んでいる人は不満側であるという傾向となった。これらの差は、坂の中腹に暮らしている人と少し離れた平地の地域で暮らしている人との差であり、もう少し詳しく分析してみる必要がある。

4.2 非常時の利用実態と意識

図-2は3月11日に起きた東日本大震災で「避難したのか?」、「避難場所は館鼻公園か?」を質問した結果である。避難した人は全体の51.6%を占め、その内館鼻公園へ避難した人は45.0%であり少なかった。それらの人々の満足度は62%と比較的高い(表-2)。その中で満足度を分ける要因は、数量化Ⅱ類による分析(表-2)により、第1位は「どのくらい滞在しましたか?」であり、「10分程度」と答えた人が満足している傾向にあり、「その他」を答えた人が不満の傾向にある。「その他」とは、1時間と答える人から長い人では1日と答える人がおり、

館鼻公園は一時避難地ということで長時間の滞在には不便を感じた人が多かったのではないかと考えられる。第2位は「年代」であり、70代以上の方は満足しており、10代～20代の若い人たちは不満側であるという傾向となった。その他影響を及ぼす要因に「交通手段は?」があり、自動車で避難した人が満足する傾向にあった。これは理由の記述によると震災当時風が強く寒かったことから車内で寒さをしのいだようである。一方で、徒歩や車イスで避難した人にとっては、駐車場や入口に止めてある車が大変迷惑であったようである。

5. おわりに

平常時に不満であると答えた人は少人数であり、個人的な要望にどう応じていくのが課題となる。非常時に公園内に一時的に避難できる施設等があると満足と感じる人が多くなると考えられ、そういった要望も多く寄せられていることからそれが課題となる。また、アンケートの自由記述の欄に書かれた意見を参考に詳しく分析を進めることによって見えてくると考えられるので今後も検討していく必要がある。

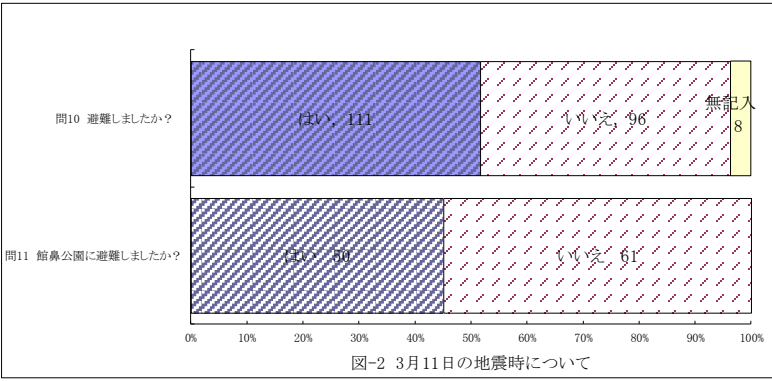


表-2 3月11日当時の館鼻公園利用満足度についての分析(数量化Ⅱ類)

アイテム名	カテゴリー名	例数	カテゴリースコア	レンジ	偏相関係数
問9 その当時どこにいたか?	自宅	22	-0.134	0.428	0.318
	職場	10	0.294		
	その他	5	0.001		
問12 館鼻公園に着くのにかった時間は?	5分程度	18	-0.363	1.160	0.552
	10分程度	12	0.080		
	その他	7	0.797		
問13 交通手段は?	徒歩	24	0.015	2.091	0.630
	自動車	11	0.293		
	その他	2	-1.798		
問15 館鼻公園内のどこに行きましたか?	日和田広場	8	-0.608	1.455	0.653
	グレットタワー	10	0.222		
	見晴台	7	0.848		
	その他	12	-0.274		
問16 なぜその場所に行ったのですか?	一番高いから	20	0.082	1.823	0.726
	海の様子を見るため	10	0.654		
	その他	7	-1.169		
問17 どのくらい滞在しましたか?	10分程度	2	2.559	3.013	0.777
	30分程度	7	-0.177		
	45分程度	11	0.348		
	その他	17	-0.453		
問19 その後どうしましたか?	自宅へ	30	-0.129	1.887	0.670
	湊公民館へ	3	-0.524		
	その他	4	1.362		
性別	男	21	-0.129	0.299	0.269
	女	16	0.170		
年代	10代～20代	4	-1.240	2.185	0.726
	30代～40代	7	-0.052		
	50代～60代	18	-0.124		
	70代以上	8	0.945		

外的基準	例数	カテゴリースコア	相関比
満足	23	0.6655	0.819
どちらでもない	5	-0.4331	
不満	9	-1.4602	